



「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第30号をお届けします。
今回は、出版委員会からの広報、アンテナ・電波伝搬関係特集号論文募集についてお知らせします。

【1】出版委員会からの広報

出版委員会の活動状況について、出版委員会の庄木幹事（東芝）より報告していただきます。

AP 研出版委員会では、AP 研の活動分野に関わる出版物や資料、データなどを整理し、提供することにより、アンテナ・伝搬分野の皆様の日頃の研究や開発、教育といった活動に貢献していきたいと考えております。その活動の手始めとして、「アンテナ工学ハンドブック第二版」の出版に取り組んできました。

「アンテナ工学ハンドブック」（旧版）は、1980年10月の創刊以来、国内のアンテナ・伝搬技術者・研究者・設計者の方々に長年バイブルとして活用していただきました。が、近年のアンテナ・伝搬分野の進歩や応用分野の広範化に伴い、このハンドブックに最新の技術を盛り込んで欲しいという要求が多く聞かれるようになりました。そこで、AP 研出版委員会が中心となり、「アンテナ工学ハンドブック第二版」（新版）の編集作業を2005年から取り組み始めました。その方針・構成としては、

- ・ 新版においても旧版と同様にアンテナに関する事項を可能な限り網羅すること。
- ・ 例外を除き原則として書き下ろしとすること。ただし、書き下ろしに伴って正確さが損なわれることが危惧される項目もあり、その場合には旧版の内容を利用すること。
- ・ 構成の特徴としては、旧版の2章「基本アンテナ」を4章「線状・板状アンテナ」と5章「平面アンテナ」に分けてその内容の充実を図ると共に、近年その発展が目覚ましい信号処理とアンテナの組合せを反映して9章「アンテナの信号処理」を新設したこと。

などがあげられます。2006年からは執筆者への依頼等の具体的な編集作業に入り、この度、発刊に漕ぎ着けることができました。まだ不十分な点もあるかも知れませんが、アンテナ・伝搬分野における多くの専門家の方に鋭意をもって執筆していただいておりますので、アンテナ工学に関わる多くの研究者・設計者・技術者にとって利用価値の高いハンドブックであると確信しています。ぜひ、活用していただければ幸いです。

なお、AP 研出版委員会の今後の活動としては、電子情報通信学会の取り組みである「知識ベース」（技術分野毎にハンドブック的な技術内容を Web 上で公開する）への対応や、二種研ワークショップ資料の効率的な活用、アンテナ伝搬関連データ（チャートなど）のホームページ上での公開、アンテナ分野の歴史資料データベースの活用などを考えております。皆様の活動にプラスになるようにしたいと思しますので、ご意見ご要望等がありましたらお近くの AP 研役員、委員等へお知らせいただければと思います。

【2】アンテナ・電波伝搬関係特集号論文募集

ユビキタス・ネットワーク社会の実現に必要な無線要素技術におけるアンテナ・伝搬技術の果たす役割は年々高くなっています。特に通信の高速化・広帯域化を実現するためには、システムフロントエンドとして高性能なアンテナ設計・シミュレーション・解析および測定技術、複雑な伝搬チャネルに対する理論解析・シミュレーション・モデリング技術および測定技術が必須となります。特に、近年のシミュレーション技術は、計算機のパーソナル化・高度化の恩恵を受けその進展は目覚ましいものがあります。

「シミュレーション・解析手法とアンテナ・伝搬技術特集号」（2009年9月号）では、このような状況のもと、各種アンテナシステム、伝搬関連分野の設計、これらに関するシミュレーション・解析手法を中心として、関連する幅広い分野の最新技術に関する論文を募集することとしました。多数の皆様からの積極的な投稿を期待しています。投稿締切日は2009年1月7日(水) 厳守となっています。詳細につきましては、下記をご覧ください。

URL: http://www.ieice.org/cs/jpn/cs-edit/CFP/cfp_JB_2009.9.pdf

【3】AP 研副委員長の戯言

いよいよ金沢ですね。夜、片町、香林坊界隈に飲みに行かれる方は多いと思いますが、金沢は意外に方言がきつく、地元の女性（男性でもかまいませんが）が本気で金沢弁でしゃべるとほとんど理解できません。以下、代表的な金沢弁を紹介しますので、ぜひ、ご活用ください。や（ね）と記載している箇所につきましては、男性が「や」、女性が「ね」ですのでご注意ください。なお、これらはWikipediaおよび金沢市ホームページに掲載されているものに地元女性（研究室学生）が修正を加えたものです。使用する場合にはイントネーションも重要で、金沢市ホームページでは実際の発音を音声で聴くことができます。（金沢市ホームページ（方言）：<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/11104/hougen/index.jsp>）

- **～しまっし＝～しなさい**
金沢弁の代表ともいえる接尾語。「き（来）まっし金沢」など。この「～しまっし」はさらに、「～しまっしね」「～しまっしま」となると、さらに『～しなさいよ』『ぜひ～しなさいよ』と意味合いが強くなっていく。
- **～ぞいや（ね）、～わいや（ね）、～がや＝～なんだよ（なのよ）**
- **～がいや（ね）＝～じゃないか（の）**
「～がや」とは違い、相手を非難するようなニュアンスが加わる。相手を問いたただす場合には、「どんながや（どんながやいね）？」＝『どうということ/わけだい？』
- **～げん**
「食べとる」「しとる」などの金沢弁の動詞と共に使われる。「食べとるげん（食べとれん）」＝『食べてるよ』、「しとるげん」＝『してるよ』。さらに「わいや」などをつけて「食べとれんわいやダラ！」＝『食べているじゃないか、バカ』のように怒りを強調することもある。なお、「だら」はいわゆる『アホ・バカ』にあたる軽い蔑称。「だらぶち」とも言う。
- **～ねん**
関西弁のように「～やねん」とは言わない。（金沢弁）好きねん↔（関西弁）好きやねん
- **きのどくな＝ありがとう**
「ありがとう」を意味する金沢弁には「あんやと」「ごきみつつあんな」などがあるが、「きのどくな」は『申し訳ない』というニュアンス。
- **ほーや/ほーやね**
親しい仲間内の会話で使われるあいづち。「ほーやほーや」とくり返されることもある。『あなたの言うことに大いに同意する』という場合には、「おいや/おいね」と強く発音します。
- **理屈な＝もっともな話だ**
論理的な考え方や物事が巧みに組み立てられている事に対する賞賛。純粋な褒め言葉であり、批判的な意味は含まれていない。
- **つるつるいっばい**
コップ等に注がれた飲み物が表面張力ギリギリまで注がれた様を言う。これに相当する標準語はなく（地元の人には標準語だと思っています）、非常に便利です。標準語にしたいですね。
- **くどい＝塩からい、しょうもない＝味が薄い、みずっぽい**
- **がんこ・がんこな**
意思の固い頑固ではなく『とても』、『とてつもなく』、『すごく』の意味をもつ。若者の間で一時期、「がんこ」と「ムカつく」、「腹立つ」などを合わせて「がんこムカつく」などと言うことが流行ったこともある。
- **きんかんなまなま**
道路の雪が踏み固められ凍って、表面がつるつるになる状態。「寒いさけきんかんなまなまやろうし、気いつけて行きまっし」。ちなみに、『雪や泥の中にずっぽりと足が落ち込むこと』を「ごぼる」といいます。雪国ならではの方言ですね。



<問合せ先>

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 牧野滋（金沢工業大学）

E-mail : ap_ac-chair@mail.ieice.org

AP-NET : AP 研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録は AP 研 HP にて

AP 研 HP : <http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/>